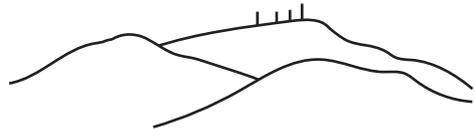


Youth Manna

2019/11/18 - 11/24



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2019/11/18(月)

イザヤ 55 章

神様は誰を招いているのでしょうか？「渇いている者はみな」と呼びかけています。

私たちの内には、この世のものでは決して満たされない領域があります。そこは神様によってでしか満たされません。ヨハネ 7:37 でイエス様は「だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい」と大声で呼びかけました。

君の内側はどうか？もし心が渇いていると感じるなら、今、心をイエス様に開いて祈ろう。雑音を消して、ただ神様の語りかけに耳をすませよう。はるかに高い神様の思い、道に目を向け、今日を生きよう！神様の約束が必ず自分の人生の上に成ることを信じて歩もう！！

2019/11/19(火)

イザヤ 56 章

主の民は、公正と義を行うことが求められる。だけどそれを行う力は人間的な努力からではなく、主の救いと義によって与えられる(1)。2節には公正と義の具体的な行いが書かれている。ここで重要なのは形式的なことではなく、神様を愛し(6)、喜んで従い行うその心だね。神様はそのような人々を人種や身分に関わらず救ってくださる方なんだ。

それとは対照的に9節以降には、イスラエルの民でありながら契約に不忠実な人々の姿がある。彼らは地位や立場により頼み、本当にすべきことをしなかったんだ。

祈ろう。神様、私があなたによって公正と義を行うことができることを感謝します。あなたを愛し、公正と義を行う者としてください。

2019/11/20(水)

イザヤ 57 章

イスラエルの民は、表向きは主を礼拝しながら心は遠く離れていたか、あるいは他の神々を礼拝することをやめず、神様に背いていました。神様は、そのような民の罪を憎まれます。しかし、神様はいつまでも怒ってはおられません(16-17)。神様は、心優しくあわれみ深いお方です。人が自分の力では義を行えないと認めてへりくだり、神様のもとに来るなら、神様は共に住んでくださいます。

神様、あなたに背いてしまう者を、それでも愛してくださることを感謝します。神様を愛し、神様とともに歩むものとさせてください。

2019/11/21(木)

イザヤ 58 章

2節で、人々は、自分が正しいことを行なっている、主を求め義を行なっているとおもっていた。しかし、「人はうわべを見るが、主は心を見る」(第1エルサレム 16:7)

人の罪深さは、信仰的な行いさえ自分の栄光のために利用しようとしてしまう。また心の奥底にある自己中心に無自覚である。

13.14節では、自分の好むことを捨てるのが求められ、そのとき、私たちは主を喜びとすることができ、主も喜んでくださるとある。

神様のためにすべきこと、捨てるべきことを考えよう。神様に仕える者となろう！

2019/11/22(金)

イザヤ 59 章

今日の箇所でも語られている事は、神様が離れて行くのではなく、私達が神様から離れているという事、人の内には愛も救いもないという事、しかし神様による愛と救いが私達を罪と死の中から取り除いて下さる事です。

教会の外では愛と救い無しで生きている人達でいっぱいです。まず必要なのは私達クリスチャンがその中でも守られるようにと日々互いに祈る事です！そしてその人達の救いの為以上に、自分が神様に従う為に日々証していく必要があります。

今日は、誰か思いつく仲のいい人の救いの為に祈ってから1日を始めよう！

2019/11/23(土)

イザヤ 60 章

私たち罪人が暗闇の中にいたところに、神様は光を与えてくださった。民を暗黒が覆っていても、主の民の上には主の栄光が輝く。と書いてあるね。その栄光に照らされて国々が主の民のところに集まってくることが預言されている。そこで、携えられる財宝は主の誉れを述べ伝えるために持ってこられる。

そこには、主の栄光があり、主の回復が約束されているね。これは実際に主の再臨としてこれから起こることでもあるし、私たち一人一人に主がしてくださることでもあるんだ！

だから、私たちは起きて主に目をあげよう！神様の光は決してなくなることがない。その主がしてくださることを見ていこう！

2019/11/24(日)

ヘブル 11:1-16

1節に目を留めよう！信仰とは何か。これはとても大事なことだね！目に見えるものに頼ることとは真逆のことなんだ。続けて、創世記で登場する人物がどのように信仰に生きていたかが証されている。そして13節から16節で、彼らが神様の道を生きてそれを喜び、神様が用意して下さっている天の都に憧れていたことが書かれています。

私たちはどうでしょうか？自分の生き方や考えに、信仰は働いているでしょうか。地上のことだけに目を向けず天の故郷に憧れる心を持っているでしょうか。

私たちも神様の道を歩む者です。ですから創世記の模範に挙げられた人物やイエス様ご自身を見て、また御言葉を信じてこれからも歩み続けましょう！